資料3-6-6 主なインターネット放送閲覧ソフト一覧

ソフト名	特徴	入手先
CU-SeeMe	世界中で最も多くの愛用者をもつビデオ会議ソフト。白黒だが(製品版はフルカラー対応)スムーズな動画を配信できる。チャット機能があるので映像を見ながら視聴者が意見参加できるのが大きな特徴。もちろんビデオカメラとビデオ入力機能を持つパソコンがあれば自分からも映映像を配信することができる。	ftp://cu-seeme.cornell.edu/pub/CU-SeeMe/ http://www.macnica.co.jp/
Emblazeシリーズ	ビデオ、オーディオ、アニメーション、ゲーム等のウェブコンテンツ作成ツール。Java技術を使用しているため、再生のためのプラグインが一切不要。しかも、配信の為の高価な専用サーバソフトも一切必要ない。本格ストリーミングマルチメディアウェブサイトが手軽につくることができる。	http://www.jp.emblaze.com/
InterLive	映像、音声、MIDI、そして文字情報の配信とともに、著作権情報を登録管理する機能や、各種IDの配信機能を合わせ持った商用インターネット配信システム。インターネットでは非常に困難であった、同時に複数の動画を配信することが可能。また通信レートの変化にも柔軟に対応できる特徴を持っている。	http://www.megachips.co.jp/prd/dld/dld.htm
Quick Time	QuickTime形式のファイルは、番組放送というよりビデオクリップとして使われることが多い。ダウンロードしながら再生する機能もあり、それほど待たされることなく動画を楽しめる。	http://www.apple.com/quicktime/ http://quicktime.apple.co.jp/index.html
RealPlayer	音質が高いため、インターネット放送で多く使われている。次世代ストリーミング技術RealSystem G2に対応したRealPlayer G2(まだベータバージョン)もリリースされた。このRealPlayer G2では、従来のRealPlayerに比べ、音質が向上した他、これまでのオーディオ、ビデオ、アニメーションに加えてテキストとイメージのストリームを組み合わせる事ができるようになった。	http://www.real.com/products/player/download.html http://www.jp.real.com/download/index.html
Shockwave Director & Flash	CD 並の音質を誇るストリーミングオーディオやなど、品質の高いストリーミングコンテンツをウェブブラウザ上で鑑賞できる。	http://www.macromedia.com/shockwave/download/alternates/http://www.macromedia.com/jp/shockwave/
SoftwareVision	インターネットやイントラネット上で、リアルタイムの映像配信を可能にする技術。既存のパソコンにソフトをインストールするだけで、ネットワーク映像中継サービスやビデオ・オンデマンドサービスを実現することができる。	http://www.softwarevision.or.jp/
Stream Works	元祖リアルタイムビデオビューワーともいえるソフト。最新 バージョンになって低速回線での画質・音質ともにアップし、 28.8Kbpsモデムでもかなりスムースな動画が楽しめる	http://www.xingtech.com/downloads/sw/ http://www.clubweb.or.jp/stream/download/
VDOLive PLAYER	ライブ放送対応で28.8Kbpsでもかなりの高画質な動画を楽しむことができる。	http://www.vdo.net/download/ http://www.vdo.co.jp/download/player/index.html
VivoActive PLAYER	ウェブベースのオンデマンド型ビデオストリーミング再生ソフト。初めにある程度ダウンロードしてから再生を開始するので、低速回線でも品質が低下しないのが特徴。	http://www.vivo.com/dload.htm
WebView/Livescope	ユーザーがアクセスした時点の静止画を送るライブ静止画モードと、アクセスしている間の動画を送るライブ動画モードの2モードを備えている。また、ライブ映像を見ながら、遠隔地に設置されたカメラのアングルを、ウェブページ上で自由に操作できる。	http://www.x-zone.canon.co.jp/WebView/

## 解説

の方式)レベルのテレビ放送を非圧縮のままデジタル化すると、約145Mbpsであり、CSデジタル放送に利用されているMPEG2でも約6Mbpsという非常に大きな転送レートが要求される。つまり、現状のインターネット環境では、テレビ並の放送サービスを提供することは非現実的なのである。したがって、インターネットの映像サービスは日常的に利用するというより、試しに再生してみるといったレベルにとどまっている。当面はプロモーション目的の補完メディアという位置付けであり、有料サービスのビジネス化はしばらく困難だと思われる(資料3-6-4)。

#### 提供サイトが増えている音声サービス

音声の場合は、20Kbps程度の転送レートでも、FM放送に近いクオリティの配信が可能なため、インターネットラジオサービスが一般化しつつある。また、話題になっているMP3(MPEG Audio Layer3)を利用した音楽サイトが増えており、Real Audioなどのストリーミング系ソフトで試聴し、気に入ればMP3をダウンロードするといった形態も増えている(資料3-6-5)。

#### インターネット放送の未来

2000年末に開始されるBSデジタル放送、2003 年の地上波デジタル放送では、映像・音声以 外のデータ帯域を利用したサービスも開始される。その転送レートは1~2Mbpsという高速の転送レートが可能なため、従来のインターネットではできなかった多様なサービスが展開されると思われる。データ放送の記述言語は、HTML、MHEG、XMLが検討されているが、現行のHTMLに時間制御など放送に必要な要素を新たに定義できるメタ言語であるXMLが有望だろう。電波以外でも、CATV、FTTHなど家庭への高速伝送が可能になり、21世紀に向かいインターネットと放送の本格的な融合が始まるに違いない。

(三浦文夫 株式会社電通)



# 「インターネット白書ARCHIVES」ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年~2012年までに発行したインターネット の年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以 下のウェブサイトで公開しているものです。

### http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- ●記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- ●収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の 著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- ●著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- ●このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくま で個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- ●収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名お よび年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記くだ さい。
- ●オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D (初期は株式会社インプレス)と 著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全 に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的 な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D | 🖂 iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.